

|     |       |      |      |
|-----|-------|------|------|
| 責任者 | 経済学部長 | 作成部局 | 経済学部 |
|-----|-------|------|------|

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

学部での専門的な学びを実践し、卒業後に社会で活躍していくために必要な基礎学力を修得できる教育を提供する。

(狙い内容)

多くの学生は本学部卒業後は社会へと出て行くので、社会、とくにグローバル化が進む社会で役立つような学びを本学部で提供する。そこで、教務上の1つめの目標として、基礎学力を修得する教育に力を入れる。ここでの基礎学力とは、経済学・数学・統計学などの分析ツールを利用して現実の経済を分析する能力と、英語などの外国語を使って経済やビジネスについて議論できる能力である。これらの能力のうち、今回は外国語に関する教育の充実を目標として掲げる。すなわち、外国語資格・検定試験の成績向上を目指し、また留学生とともに英語を使って経済と経済学を学ぶ科目の提供を増やす。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

外国からの受け入れ留学生も増加する中、経済学部においても英語で提供する講義科目の割合が高まる。こうした中で、留学生の講義への質的なニーズにも十分こたえ得る内容を提供するとともに、日本人の受講生も内容を十分に理解し、満足のいく成果を得られるような状況を達成する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

#### 2. 達成度評価

| 評価指標                                    | 評価尺度                                  | 変更有無 |
|---|---------------------------------------|------|
| TOEIC(TOEIC-IPを含む)で600点以上のスコアを記録する学生の割合 | A:約20%<br>B:約16%<br>C:約12%<br>D:12%未満 | 有(無) |
| <変更時記入欄>                                | <変更時記入欄>                              |      |

#### 3. 年度毎の目標値

|                     |                 | 2015年度                             | 2016年度 | 2017年度                                   | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 変更有無 |
|---------------------|-----------------|------------------------------------|--------|--|--------|--------|--------|--------|------|
| 2015年度(計画策定時)       |                 | D                                  | D      | C  | C      | B      | B      | A      | 有(無) |
| 2016年度進捗状況 & 今後の目標値 | 評価尺度: A~D       | <実績><br>D                          | 実績     | <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標><br>D             |        |        |        |        |      |
|                     | 見込・実績・目標(値又は状況) | <実績><br>600点以上のスコア取得者の割合が9.6%(2年生) |        | 11月実施のTOEIC(2年生)の600点以上のスコア取得割合が10%台(目標) |        |        |        |        |      |

【2016年度の進捗状況について】←

2016年度の経済学部一斉TOEICテスト(2年生)は11月実施のため現時点で評価できない。なお、2015年度11月実施分では9.3パーセントによりD評価となる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・「教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)」には、アウトカムの観点からの目標は設定されています。(A)
- ・設定された内容は適当であり、自己評価・点検は適切に行われていると評価できます。(G)
- ・適切な評価がなされている。(E)
- ・参考ですが、高大接続改革を踏まえた英語に関する外部テストについてはTOEFLを始めとして、TOEIC以外のものが想定されています。国際的通用性の観点からも、今後は評価尺度としてのTOEICについて再考も必要となってくるかもしれません。(B)
- ・英語で提供する講義科目についての取り組みは、順調に進展しています。(C)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

基礎学力に基づいて論理的に思考し、その内容を他者に伝える能力を備えてグローバルに活躍できる人材を育成する。

(狙い内容)

多くの学生は本学部卒業後は社会へと出て行くので、社会、とくにグローバル化が進む社会で役立つような学びを本学部で提供する。そこで、教務上の2つめの目標として、基礎学力を使って論理的に思考して他者に伝える能力を涵養するために、論理的に文章を書く能力を育てる横断的なカリキュラム(Writing across curriculum)を提供する。すなわち、授業の中で論理的に考えて文章を書くことを指導をする科目を既存科目の中から指定していき、担当教員相互のFDを通して、このような能力を育む教育を提供する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

学部を卒業していく学生が、目的(例えば、論証、提案etc.)に合わせて機能する文章を書く能力を身につけていること。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

|      |   |      |  |      |
|------|---|------|--|------|
| 評価指標 | 卒業要件となる科目群とは別に、「Writing across Curriculum 科目グループ」なるものを設定し、それに参加する科目を徐々に増やすことを目指す。それに参加する科目は、授業回数とほぼ同じ頻度で文章作成を行う科目(文章作成は、授業内・授業外を問わない)とする。 | 評価尺度 | A : 80(ほとんどの演習科目といくつかの講義科目)                    | 変更有無 |
|      | <変更時記入欄>  |      | B : 40<br>C : 20(多くの基礎演習)<br>D : 0<br><変更時記入欄> |      |

**3. 年度毎の目標値**

|                     |                 | 2015年度              | 2016年度 | 2017年度  | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 変更有無 |
|---------------------|-----------------|---------------------|--------|---|--------|--------|--------|--------|------|
| 2015年度(計画策定時)       |                 | D                   | C      | C   | B      | B      | B      | A      | 有(無) |
| 2016年度進捗状況 & 今後の目標値 | 評価尺度: A~D       | <実績><br>C           | 実績     | <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標><br>C                  |        |        |        |        |      |
|                     | 見込・実績・目標(値又は状況) | <実績><br>基礎演習(1年次)のみ |        | <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標><br>基礎演習以外の科目を検討開始(実績) |        |        |        |        |      |

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年度は、Writing across Curriculumに該当するものは基礎演習のみであるが、本年度中にFD委員会においてWriting across Curriculumの勉強会と検討が始まる予定である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ Writing across Curriculumに関する取組みは、順調に進展しています。(C)
- ・ 適切な評価がなされている。(E)
- ・ 順調に推移しており、評価できます。(F)
- ・ 今後の演習科目、講義科目への展開に向けて、学部内で活発なFD活動が展開されることを期待します。(H)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

すべての学生が活躍できる学部を目指す。

(狙い内容)

各学生が将来を見据えて学部4年間の目標を立て、その目標に向かって少しでも前進し、その前進がよく自覚できるよう、学生の個性に応じた支援をする。そのために、入試形態別に成績・課外活動・就職のデータを利用して、それぞれの特徴から改善点を探り、教育を中心に支援を提供する。また、そのために学習ポートフォリオを学生が活用する枠組みを構築する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

成績不振者・勉強意欲喪失者・退学者を現在よりも減少させ、かつすべての学生の大学生生活満足度を現在よりも上昇させる。  
また、各学生が将来の自分の夢を実現するために、適切に科目履修・資格取得ができるような仕組みを強化する。  
さらに、社会変化に柔軟に適應する力、いかなる職場においても貢献する力を育てるために、課外活動なども含めて学生の全人的成長を見守る。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

|      |   |      |  |      |
|------|---|------|--|------|
| 評価指標 | 退学者数、<br>留年者数、<br>学習ポートフォリオ利用率<br>学生生活満足度 | 評価尺度 | A : 退学者27名、留年者134名<br>ポートフォリオ利用率90%、<br>学生満足度90%   | 変更有無 |
|      | <変更時記入欄>                                  |      | B : 退学者30名、留年者139名<br>ポートフォリオ利用率60%、<br>学生満足度88.5%<br>C : 退学者33名、留年者144名<br>ポートフォリオ利用率15%、<br>学生満足度87%<br>D : 退学者36名、留年者149名<br>ポートフォリオ利用率15%未満、<br>学生満足度85.4% |      |

**3. 年度毎の目標値**

|                                   |                                 | 2015年度             | 2016年度                                 | 2017年度  | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 変更有無 |
|-----------------------------------|---------------------------------|--------------------|--|---|--------|--------|--------|--------|------|
| 2015年度<br>(計画策定時)                 |                                 | D                  | D                                      | C   | C      | B      | B      | A      | 有・無  |
| 2016年度<br>進捗状況<br>&<br>今後の<br>目標値 | 評価<br>尺度:<br>A~D                | <実績><br>D          | 実績<br><2016年度末時点の<br>見込み又は実績又は目標><br>D |   |        |        |        |        |      |
|                                   | 見込・<br>実績・<br>目標<br>(値又は<br>状況) | <実績><br>すべての項目でD評価 |  | <2016年度末時点の<br>見込み又は実績又は目標><br>すべての項目でD<br>評価(昨年度並) |        |        |        |        |      |

**【2016年度の進捗状況について】**

ポートフォリオの導入については、高等教育センターにより2017年4月より稼働が可能となったために新1年生を対象に入学オリエンテーションにて紹介できるよう作業を開始したために今後の利用率が見込まれる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい ・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 学生によるポートフォリオについては2017年度からの段階的導入が予定されているので、初年度は導入される一年生からの積極的な利用率向上が期待されます。(B)
- ・ 適切な評価がなされている。(E)

**【A票:教育研究目標4】**

(タイトル)  
対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく学部を目指す。

(狙い内容)  
教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、学部ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**  
学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信をこれまで以上に積極的に進める。また、セミナー、コンファレンスなどの開催も積極的に行うことで研究交流を促進し、同時に研究成果の発信に努める。具体的には、掲載論文数の増加、掲載学術誌の水準の向上、セミナー、コンファレンスなどの開催の頻度の向上が挙げられる。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

|      |   |      |   |      |
|------|---|------|---|------|
| 評価指標 | 発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数 | 評価尺度 | A: 行動、計画どちらもA<br>B: 行動、計画どちらもB<br>C: 行動、計画どちらもC<br>D: それ以外    | 変更有無 |
|      | <変更時記入欄>                                  |      | <変更時記入欄>  |      |
|      |   |      | A: 行動計画①②どちらもA<br>B: 行動計画①②どちらもB<br>C: 行動計画①②どちらもC<br>D: それ以外 | 有・無  |

**3. 年度毎の目標値**

|                     |                 | 2015年度              | 2016年度 | 2017年度                                   | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 変更有無 |
|---------------------|-----------------|---------------------|--------|--|--------|--------|--------|--------|------|
| 2015年度(計画策定時)       |                 | D                   | D      | C  | B      | B      | A      | A      | 有・無  |
| 2016年度進捗状況 & 今後の目標値 | 評価尺度: A~D       | <実績><br>D           | 実績     | <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標><br>D             |        |        |        |        |      |
|                     | 見込・実績・目標(値又は状況) | <実績><br>行動計画①②どちらもD |        | <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標><br>行動計画②のみCだが①はD |        |        |        |        |      |

**【2016年度の進捗状況について】** ←

ディスカッションペーパー 2017.2.2.12現在 17本(C評価)、また経済学セミナーおよび経済学研究会は随時申し込みとしたことにより3月予定のものを含めて18回と順調である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>  
文言修正のため

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・研究成果の社会への還元は、順調に進展しています。(C)
- ・適切な評価がなされている。(E)

**【A票:教育研究目標5】**

(タイトル)

データに基づき、各種の高大接続方法を検討・改善する。

(狙い内容)

本学部の教育でその能力を伸ばせるような学生が入学できるように、入試形態別のデータに基づいて入試や他の高大接続制度を改善していく。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

多様な学生を受け入れる一方で、各自がディプロマ・ポリシーを満たして卒業できるよう、入学時点で必要最低限の学力のある学生が入学できる高大接続制度にする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

|      |                                    |      |   |      |
|------|------------------------------------|------|---|------|
| 評価指標 | 学年別に、入試形態別平均GPAの学部平均GPAからの差を指標とする。 | 評価尺度 | A : 4学年とも安定的に-0.45以上<br>B : 2学年が安定的に-0.45以上<br>C : A・B以外<br>D : | 変更有無 |
|      | <変更時記入欄>                           |      | <変更時記入欄>  |      |

**3. 年度毎の目標値**

|                                   |                                 | 2015年度                                      | 2016年度   | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 変更有無 |
|-----------------------------------|---------------------------------|---|--|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 2015年度<br>(計画策定時)                 |                                 | C   | C  | C      | C      | B      | B      | A      |      |
| 2016年度<br>進捗状況<br>&<br>今後の<br>目標値 | 評価<br>尺度:<br>A~D                | <実績><br>C                                   | <2016年度末時点の<br>見込み又は実績又は目標><br>C   |        |        |        |        |        |      |
|                                   | 見込・<br>実績・<br>目標<br>(値又は<br>状況) | <実績><br>ふたつの入試区分に<br>より-0.45以下のもの<br>あり(実績) | 実績<br><2016年度末時点の<br>見込み又は実績又は目標><br>ひとつの入試区<br>分により-0.45以<br>下のものあり(実<br>績) |        |        |        |        |        |      |

【2016年度の進捗状況について】 ←

大きな進捗はないが、スポーツ選抜試験で成績の評定平均値の見直し(3.0⇒3.3)を行った。また外国人留学生試験で第2次募集の導入を決定するなど、より成績の高い学生を集めるための入試改革を行っている。2016年度春学期時点での学年別入試形態別平均GPAと総平均の差を確認したが、C判定であった。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 適切な評価がなされている。(E)
- ・ 教育研究目標5の評価指標は具体的で優れており、自己評価・点検は適切に行われていると評価できます。(G)
- ・ 結果的に大きな進捗は見られませんが、記述からは評定平均値の見直しや外国人留学生試験の変更など、積極的に入試改革を試みていることが窺えます。今後、高大接続や教育面で様々な結果に結びつくことを期待しています。(H)